

第44回 水環境館水辺の生き物講座



みのしま 〜マテほり in 蓑島〜

今回は初企画!マテ貝掘り(マテほり)に行ってみてまいりました!
場所は福岡県行橋市蓑島(みのしま)というところで、個人的に遊びに行っても大人500円、こども300円で参加できます。興味がある方はぜひ行ってみたいはいかがでしょう?!

☆マテ貝の掘り方



☆当日の様子



☆マテ貝以外の生き物



マテ貝の水管は絶滅危惧種「アオギス」の大事な餌となっているんだ。マテ貝がいなくなると、アオギスは絶滅しちゃうかもしれないね。

二枚貝の悲しい現実

みなさんの食卓に並ぶハマグリやアサリなどの二枚貝は、最近減少傾向にあります。その背景には乱獲や、干拓、海岸工事、水質汚濁などの人間活動の影響があります。この蓑島にも昔はたくさんアサリがいたそうですが、今では滅多にとれないそうです。いつかはマテ貝もいなくなってしまうのでしょうか…。私たちにできることはなんですか?



紫川爬虫類三昧〜水環境館レプタイルズフェスティバル〜 企画展こぼれ話。



エピソード1 なんとか間に合った展示ケース
自称「こだわりのある男」として知られる企画展担当スタッフ。「市販の爬虫類ケースをそのまま使ったのでは面白くない!」とトカゲやヘビの展示ケースを自作しようとしたまでは良かったのですが、製作に夢中になるあまり、細部までこだわって作っていたら作業が予定よりも大幅に遅れるハメに。「ここで投げ出したら男が腐る!」と休日返上で作業にかかり何とか展示初日までに間に合わせました。



エピソード2 体を張ってマムシを撮影!
毒ヘビ標本コーナーのパネルに使用したマムシの毒牙の画像は何と製作スタッフ自らがマムシを捕獲、写真撮影したものです。「マムシを触るのは怖いから画像を貸して下さい」と余所の施設にお願いするのがカッコ悪かったので意を決して自ら撮影に挑みました。今まで生きてきた中でTOP5に入ると言うほどの緊張感の中、捕まえたマムシの口をこじ開けた時に見えた牙からしたたる黄色い毒が今目に焼き付いているとか。



エピソード3 巣穴に入らないジムグリ
自作の展示ケースの中でも一番製作に時間がかかったのがジムグリとアオダイショウのケース。このケースはジムグリがネズミやモグラの巣穴に潜り込む生態を観察できるようにと地下に掘られた巣穴の断面が見えるという手の込みよう。しかしこちらの苦勞を嘲笑うようにジムグリは全くその巣穴に潜り込まず。ところが企画展も終了間近となったある日突然穴に入ってくれるように。今では矢印の巣穴の奥がすっかりお気に入りの場所となっています。



エピソード4 トカゲが逃げた!!
ある日展示をご覧のお客様から「トカゲが逃げてますけど」との知らせが。急いで駆けつけるとケース後ろに設置したパネルを貼るボードの上にカナヘビ発見!どうやら餌を与える際に上蓋を開けた時に側面をよじ登って逃走していたようです。他にも通路を歩いていたらニホントカゲが横切ったとか、4匹いるはずのヤモリが朝来たら3匹しかいなかったとか……。※ちなみに逃げた個体はすべて回収しています。



エピソード5 「かべちよる」の正体
かべちよるといえばヤモリの事を指しているとは思い込んでいた飼育スタッフ。ところが展示をご覧になった数人のお客様からカナヘビやニホントカゲの事をかべちよると呼んでいたという証言をいただきました。ヤモリ=かべちよるではないことを知りちょっとしたカルチャーショックを受けました。みなさんの町ではかべちよるはヤモリの事ですか?それともカナヘビやニホントカゲの事ですか?



エピソード6 幻のタカチホヘビ
以前飼育日誌で紹介した深夜に山中を探し回った幻のヘビ。その正体はタカチホヘビでした。企画展スタッフの執念が実を結び遂に捕獲に成功した幻のタカチホヘビ。繊細かつ美しいその姿を生きたまま皆さんにお見せしたかったのですが、飼育がとても難しく飼育道半ばで死なせてしまい、標本の展示となりました。今回は残念な結果になりましたが、またいつの日かその美しい姿を生きたまま皆さんの前にお見せできる日を夢見しています。